

学会・シンポジウム情報

第10回国際サンゴ礁シンポジウムの開催

日本サンゴ礁学会は、2004年に沖縄において第10回国際サンゴ礁シンポジウムを開催します。現在ファーストサーキュラーを配布、ホームページを公開して、セッションの提案を受け付けています（提案受け付けメ切は2003年1月30日）。ご関心をお持ちの方は、下記ホームページにて詳細をご覧になるか、問合せ先にファーストサーキュラーをご請求下さい。

テーマ サンゴ礁生態系の恒常性と崩壊
 日時 2004年6月28日～7月2日
 場所 沖縄コンベンションセンター（沖縄県宜野湾市）
 ホームページ <http://www.plando.co.jp/lcrs2004/>
 主催 日本サンゴ礁学会
 問合せ先 ブランドゥ・ジャパン
 e-mail: lcrs@plando.co.jp fax: 03-5470-4410

国際サンゴ礁シンポジウムは、サンゴ礁に関わる様々な分野の研究者・管理担当者が、多数のセッションにおいてサンゴ礁の科学、管理、環境などについて講演・議論を行う、国際的・学際的なシンポジウムで、4年に1度開催されます。日本での開催ははじめてです。参加者は80から90ヶ国から1,000

名以上と予想しています（前回バリエで開催されたシンポジウムには、90ヶ国から1,700名が参加しました）。

日本サンゴ礁学会は第10回シンポジウムの鑄致に成功し、開催の準備を進めています。メインテーマを「サンゴ礁生態系の恒常性と崩壊」とし、4つのサブテーマ「サンゴ礁生態系の進化」「サンゴ礁生態系が成立するための条件」「物質循環からみたサンゴ礁生態系の恒常性」「人間-サンゴ礁共存系の過去・現在、そして未来に向けての提言」を定め、セッションの提案を受け付けています。

組織委員会

会長 山里 清（名桜大）
 委員長 土屋 誠（琉球大）
 事務局長 茅根 創（東京大）
 e-mail: kayanne@eps.s.u-tokyo.ac.jp

企画運営委員会：中森 亨（東北大）、鈴木 款（静岡大）、灘岡 和夫（東工大）、波利井 佐紀（東工大）、菅 浩伸（岡山大）、山野 博哉（国立環境研）、工藤 君明（グローバルオーシャンディベロップメント）、立田 稔（電中研）、中井 達郎（自然保蔵協会）、新垣 裕治（名桜大）、山城 秀之（名桜大）ほか

自然史学会連合ニュース

自然史学会連合第8回シンポジウム「極域の生物学—フィールドサイエンスの最前線—」が開催されます。藻類学会会員の皆様も奮ってご参加下さい。

日時：12月7日（土）午後1時より5時半まで
 場所：国立科学博物館 新宿分館 講堂
 （東京都新宿区百人町3-23-1）
 （JR大久保駅北へ徒歩5分、JR新大久保駅北西へ徒歩8分）

講演題目と講演者

「南極の陸上生態系—極限環境に生きる」
 伊村 智（国立極地研）
 「氷河生態系と地球環境—雪と氷の世界の生物たち」
 幸島司郎（東工大）
 「深海底の化学合成生物群集」 橋本 惇（長崎大）
 「地下に広がる生物圏」 北里 洋（静岡大）

さまざまな極域（極地、高山、深海ならびに地底に適応した生物群集の研究にまつわる最新情報や成果を通じてフィールドサイエンスの最前線の現状や重要性を一般の方々に深く知ってもらう目的で企画されたシンポジウムです。

参加費や事前申込みは必要ありません

問合せ先

169-0073 新宿区百人町3-23-1
 国立科学博物館 動物第2研究室
 自然史学会連合事務局 篠原 現人
 電話：03-3364-7125, 2311
 FAX：03-3364-7104
 E-mail: s-gento@kahaku.go.jp
 ホームページ：<http://www.shizen.info>

（田中 次郎 東京水産大）